



Japan
Food
Research
Laboratories

HP48-6105

試験報告書

第 0556070836-1 号

依頼者 株式会社 島津製作所

検体 かび取り洗浄剤

試験項目 皮膚一次刺激性試験

平成 5 年 7 月 20 日 当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

平成 5 年 8 月 31 日

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒584 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206 東京都多摩市永山6丁目11番10号

皮膚一次刺激性試験

要 約

かび取り洗浄剤を検体として、OECD化学物質毒性試験指針（1981）に準拠し、皮膚一次刺激性試験を行った。

検体をウサギ 3匹の皮膚に 4時間閉鎖貼付した結果、除去後 1時間に全例の有傷及び無傷皮膚で非常に軽度な紅斑が認められたが、除去後24時間には消失していた。

依頼者名

株式会社 島津製作所

検 体

かび取り洗浄剤

試験実施期間

平成 5年 8月 3日～平成 5年 8月31日

試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所

試験実施者

勝田 真一 , 服部 秀樹 , 倉迫 純 , 山本 美保 , 佐藤 豊 ,
増田 佳美 , 中岡 智子 , 佐藤 秀隆

1 試験目的

検体について、OECD化学物質毒性試験指針（1981）に準拠し、皮膚一次刺激性試験を行う。

2 検 体

かび取り洗浄剤

性 状：無色透明液体

3 試験動物

日本白色種雄ウサギを日本エスエルシー株式会社から購入し、1週間以上の予備飼育を行って、健康に異常のないことを確認した後、3匹を試験に使用した。試験動物はFRP製ケージに個別に収容し、室温 22 ± 2 ℃、照明時間12時間／日に設定した飼育室にて飼育した。飼料はウサギ用固型飼料（CR-3、日本クレア株式会社）を給与し、飲料水は水道水を自由摂取させた。

4 試験方法

各々の試験動物の体幹背部被毛を試験の約24時間前に剪毛した。

試験動物1匹につき、約 6cm^2 の面積で4ヵ所を設定し、そのうち2ヵ所には真皮までは達しないように角化層にすり傷をつけ（有傷皮膚）、他の2ヵ所を無処置（無傷皮膚）とした。

約 $2\text{cm} \times 3\text{cm}$ に裁断したガーゼパッチに、検体0.5mlを均一に塗布し、これを有傷皮膚及び無傷皮膚の各1ヵ所ずつに貼付した後、絆創膏（日局）で固定した。また、パッチが皮膚と接触するように3M-Blenderm手術用テープで保持した。残りの有傷皮膚及び無傷皮膚は対照とした。

曝露時間は4時間とし、その後パッチをとり除き、曝露面を蒸留水で清拭した。除去後1, 24, 48及び72時間に観察を行い、表-1に従って刺激反応の採点を実施した。

5 試験結果（表-2）

パッチ除去後 1 時間に全例の有傷及び無傷皮膚で非常に軽度な紅斑（点数 1）が認められたが，除去後 24 時間には消失していた。その後の各観察時間において，皮膚刺激反応は認められなかった。

表-1 皮膚反応の評価

紅斑及び痂皮の形成

紅斑なし・・・・・・・・・・・・・・・・	0
非常に軽度な紅斑（かろうじて識別できる）・・・・・・・・	1
はっきりした紅斑・・・・・・・・	2
中等度ないし高度紅斑・・・・・・・・	3
高度紅斑からわずかな痂皮の形成（深部損傷まで）・・・・	4
[最高点 4]	

浮腫の形成

浮腫なし・・・・・・・・・・・・・・・・	0
非常に軽度な浮腫（かろうじて識別できる）・・・・・・・・	1
軽度浮腫（はっきりした膨隆による明確な縁が識別できる）・・・・	2
中等度浮腫（約 1mm の膨隆）・・・・・・・・	3
高度浮腫（1mm 以上の膨隆と曝露範囲を越えた広がり）・・・・	4
[最高点 4]	

表-2 皮膚反応の採点結果

皮膚反応	観察時間 (時間)	試験動物①		試験動物②		試験動物③	
		無傷	有傷	無傷	有傷	無傷	有傷
紅斑・痂皮	1	1	1	1	1	1	1
	24	0	0	0	0	0	0
	48	0	0	0	0	0	0
	72	0	0	0	0	0	0
浮腫	1	0	0	0	0	0	0
	24	0	0	0	0	0	0
	48	0	0	0	0	0	0
	72	0	0	0	0	0	0

試験動物①：体重 3.18kg

試験動物②：体重 2.87kg

試験動物③：体重 3.21kg

以 上